

令和7年度 道徳科実践・研究計画

部 員	○米山小幸、猿田千穂子、佐藤咲紀、鎌田佳佑、永須千尋、三浦茉莉
-----	---------------------------------

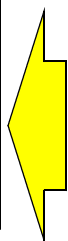
1 昨年度の成果と課題

昨年度の実践を通して、道徳科における自律した学習者の姿が見えてきた。

- ① 2年「ぐみの木と小とり」の実践では、嵐を前にぐみの実をりすに届けに行こうとする気持ちと行きたくない気持ちとの間で葛藤する小とりになり切る役割演技を取り入れた。その際、この場面の小とりが置かれた状況により没入できるよう、「嵐のトンネル」を用いることにした。教室の真ん中を飛ぶ小とり役の子どもに向かって、両隣に座る子どもたちが声や身振りで嵐を表現し、小とりの葛藤を促す仕掛けである。この嵐のトンネルを前に、考え込む様子の小とり役の子ども、いざ飛び立った後も体を低くし、まるで強い雨を避けるかのように速く走って行った子どもの姿が見られた。この演劇的手法を通して、葛藤が促され、小とりの心情に深く入り込んでいたと言えるのではないかと。教材の中で子どもが最も葛藤する場面はどこなのか、そしてその場面の登場人物によりなり切るために、どのような演劇的手法の活用が考えられるか、今後の授業研究へのヒントを得た実践であったと考える。
 - ② 前述した2年生の実践では、「親切」がテーマとなっている教材を扱った。だが、「親切」と言っても、どの立場に立つかによって、多様な捉えができる内容項目である。「小とりさんはぐみの木さんにありがとうと言いたかったと思う」と発言した子どもは、小とりがぐみの木への感謝の気持ちからりすに親切にしたという考えだ。「お礼に」という言葉も子どもたちから聞かれた。りすにぐみの実を届け終えた小とり役の子どもに、「嵐が止んでからでもよかったんじゃない。風邪ひくよ。」と揺さぶりを掛けた教師に対し、「一秒でも早く楽にしたい」と返す子どもの発言からは、りすの体を思いやる気持ちが親切な行動を促したという考えがうかがえる。本実践の役割演技には登場しなかったが、ぐみの木の視点では、りすへの友情の気持ちが親切に結び付けていることを示す反応が子どもたちから出てくるとも予想される。このように、子どもたちが心から納得する道徳的価値観を見いだすことができるよう、複数の立場から価値項目について考え、それを共有していく授業づくりが重要であると考えられる。
 - ③ 3年次までに、一つの教材でも、子どもは道徳的価値を多様に捉えるということを実感してきた。そして演劇的手法によって引き出された子どもたちの本音の中に、教師の想定にない道徳的価値が見られたときの対応に依然として課題が残った。授業で扱う教材について、教師が道徳的価値の捉えの幅を広げ、深めることが欠かせない。そうすることで、子どもたちの本質に迫る発言や深めたい発言を逃さず、大切に扱うことができる。また効果的な切り返しの発問を想定することにもつながる。3年次までの成果を生かした教材研究を継続し、子どもたちが道徳的価値に対する考えを深められる授業づくりを今後も目指したい。
- こうした成果と課題を踏まえ、道徳科における自律した学習者の姿を次のように捉える。また、自律した学習者が育つ授業デザインの具体的な取組を次のように設定する。

2 道徳科における自律した学習者の姿

- ① 教材の登場人物が置かれた状況に没入する姿
- ② 自らが納得する道徳的価値観を見いだす姿
- ③ 自らの道徳的価値の捉えの幅を広げたり、深めたりする姿



3 授業デザインの具体的な取組

- 登場人物になりきる演劇的手法の活用の仕方や活用する場面を工夫する。
- 複数の立場から内容項目について考え、共有していく活動を設定する。
- 子どもたちの本質に迫る発言や深めたい発言を大切に扱い、効果的な切り返しの発問をする。

令和7年度 道徳教育全体計画

秋田大学教育文化学部附属小学校

児童の実態		学 校 教 育 目 標		保護者, 地域の願い	
・ 伸び伸びとして明るい ・ 素直 ・ 知的好奇心が旺盛		自 律		・ 心豊かな子どもの育成 ・ 学力の向上	
		のびのび きびきび わくわく			
目 指 す 子 ど も 像					
☆思いやりの心を持ち、互いのよさを認め合って高まろうとする子ども ☆自分で判断して、正しい行動をつらぬく子ども ☆心身ともに健康で、生き生きと活動する子ども ☆目標を持ち、最後まであきらめず努力する子ども ☆学ぶ楽しさを見いだし、よりよいものを求めて工夫する子ども ☆自分の可能性を信じ、挑戦する子ども					
道 徳 教 育 の 目 標					
お互いのよさを認め合いながら、自ら考え、よりよく生きようとする子どもを育てる。					
各学年の重点目標					
学級活動		低学年	○ 基本的な生活習慣を身につけ、よりよく生活する。 A(3)節度ある生活態度、A(1)善悪の判断 ○ 友達や身の回りの人に温かい心で接し、仲良く助け合う。 B(6)思いやり・親切		
児童会活動		中学年	○ 自分なりのめあてをもって積極的に取り組み、最後までやり遂げようとする。 A(5)勤勉・努力 ○ 学年や学級集団の中で、自分や友達の良さを認め合い、協力し合う。 B(6)思いやり・親切、B(9)友情・信頼		
クラブ活動		高学年	○ 集団の中で、主体的に自分の役割を自覚して責任を果たし、協力して活動する。 C(16)役割と責任の自覚 ○ 相手の立場になって考え、誰に対しても思いやりの心をもって接する。 B(7)思いやり・親切		
学校行事		※全学年共通の重点項目 D 生命の尊さ			
各教科における道徳教育					
国語		表現力を高めることにより、人間性豊かにものごとを感じる心情を育てる。			
社会		社会生活について理解し、国土と歴史に対する理解と愛情を育てる。			
算数		問題解決の見通しをもち、筋道を立てて考える態度を育てる。			
理科		自然に親しみ、生命を尊重し、自然環境を大切にする態度を育てる。			
生活		具体的な活動や体験を通して、基本的生活習慣や自立への基礎を養う。			
音楽		音楽を愛好する心情や感性を育て、美しいものや崇高なものを尊重する心を養う。			
図工		造形的な活動の喜びを味わうことを通して、豊かな情操や創造性を養う。			
家庭		自分の生活を見直し、家族の一員として、家庭生活を大切にする心情を育てる。			
体育		健康や安全に気を付け、きまりを守って協力し合う態度を育てる。			
特別活動における道徳教育					
学級活動		友達と協力し、進んで活動することを通して、望ましい人間関係を育成する。			
児童会活動		異年齢集団による交流などを通して、望ましい人間関係の形成やよりよい学校生活づくりに参画する態度を育てる。			
クラブ活動		異年齢交流のもとで、互いに協力して興味・関心を高め、個性を伸ばし、生活を豊かにする態度を育てる。			
学校行事		望ましい集団への所属感や連帯感の自覚を深め、協力・勤労・奉仕などの道徳性を育てる。			
外国語活動における道徳教育					
		国際理解を深め、世界の人々との親善に努める態度を養う。			
総合的な学習の時間における道徳教育					
		問題を解決する資質や、自己の生き方を考える心を養う。			
具体的な取組					
		○ 登場人物になりきる演劇的手法の活用の仕方や活用する場面を工夫する。			
		○ 複数の立場から価値項目について考え、共有していく活動を設定する。			
		○ 子どもたちの本質に迫る発言や深めたい発言を大切に扱い、効果的な切り返しの発問をする。			
道 徳 的 実 践 の 日 常 化					
生徒指導における道徳教育		学級・学校環境における道徳教育		体験活動における道徳教育	
・ 望ましい人間関係の確立を図る。 ・ 子ども一人一人が自分のよさや可能性を発揮できるように支援する。 ・ 基本的な生活習慣の定着を図り、健康で安全な生活を営む態度を育てる。		・ 校内の美化や整理整頓 ・ 子どもの心に響く道徳に関する掲示 ・ 子どもと教師との信頼関係づくり		・ 全教育活動における豊かな体験を通して、豊かな心をもち、進んで行動しようとする態度を育てる。 ○ わくわく班活動 ○ ボランティア活動 ○ 自然体験活動 ○ 文化芸術体験活動 ○ 集団宿泊活動	
		家庭・地域・社会との連携			
		・ 子どもの姿をもとに保護者との話し合いの場を設け、相互理解を図る。 ・ 地域の人との交流を深め、郷土のよさに気付かせる。 ・ 道徳の時間の授業を積極的に公開する。 ・ 4校園の連携を図る。			